

県政 NEWS

Innovation

新しい発想・技術・価値観でみらいを創る。

【編集発行】 武田翔 政務活動事務所 〒222-0011 横浜市港北区菊名1-6-11 平田ビル3階
TEL 045-947-2712 FAX 045-947-2713
E-mail : info@shotakeda.com  Facebook 武田翔



武田 翔

Takeda Sho

プロフィール

昭和56年生まれ
神奈川県議会議員(2期)
米国・カリフォルニア州大を卒業後
参議院公設秘書を経て
平成27年神奈川県議会議員選挙
横浜市港北区に初当選。
一児の父でもあり
子育てと教育政策に
力を注いでいる。

医療的ケア児の保護者が新型コロナウイルス感染症に感染した場合の子どもの預かり先について

在宅で人工呼吸器などの医療的ケアを必要とする児童については、保護者が常に寄り添い、ケアを行ないながらの生活を余儀なくされています。保護者にとっては、子ども本人が新型コロナウイルス感染症に感染しなくても、保護者が感染すれば、子どもの日常生活を支えることができなくなってしまう、その恐怖は計り知れないものであります。

人工呼吸器をつけた子どもを持つ保護者の中には、自粛によって外出もままならず、精神的な負担も大きい。そうした中で「自分が新型コロナウイルス感染症にかかってしまったらどうしよう。」と不安でふさぎ込んでしまった方もいると聞きます。また、新型コロナウイルス感染症ではありませんが、ある方は、2週間入院することになったとき、子どもを長期間預けられるところがなく困り果てている、そのような相談をいただいたこともありました。制度があっても、うまくマッチングしていない状況でした。

このようなケースもあることから、保護者が新型コロナウイルス感染症に感染した場合の預け先を県で整備するなど、県民の不安にきめ細かく寄り添った体制を構築する必要があると感じておりました。

神奈川県では、子どもの預かり先について、万が一、保護者が新型コロナウイルス感染症に感染した場合でも、安心して療養に専念していただけるような体制が整いました。適切に運営がなされるように引き続き注視してまいります。

6月23日に行われた一般質問について(一部抜粋)



●津久井やまゆり園事件への追悼と鎮魂のモニュメントの整備について

新型コロナウイルス感染症の影響により、津久井やまゆり園事件の追悼式が中止となりました。こうしたことが事件の風化につながらないよう、今後も、障がい者への差別や偏見を無くす取組を更に進めていくことが必要であると考えます。

あの凄惨な事件の犠牲者に対し、追悼の念を表すためモニュメントを整備することが大変大切であることは言うまでもありません。しかしながら、その整備に当たっては、事件に対して様々な思いをお持ちの皆様への配慮、そして、将来に向けてどのように繋いでいくかということも重要です。

社会全体で皆が事件を忘れずに語り継ぎ、「ともに生きる社会かながわ」の推進に向けて、より一層、取組を進めていくことをお誓い申し上げます。

●医療機関のAPI連携について

医療機関でのICTの活用は、これまでレセプト(診療報酬明細)の電子化や患者カルテの電子化といった形で進められてきました。しかし、施設ごとにバンダーや仕様異なることなどから、オンラインでの施設間連携が十分に進んでいないことが大きな課題です。

これに対して、異なるプログラムの間で橋渡しを行う仕組み、いわゆるAPI(Application Programming Interface)を活用することで、異なるシステム間でデータを連携することが可能となります。

このような連携の仕組みを研究し、病院と診療所の連携や、医師の診療などに、データを効果的に活用し、効率的に質の高い医療を提供していくことが重要だと考えます。近い将来、県内の医療機関でのAPI連携を実現して、世界に冠たる医療体制の構築を目指します。



2015年、
県議会議員選挙にて
16,999票の
ご支持をいただき

初当選

子育てや
教育・福祉の
問題を中心に
取り組んでいます

神奈川県議会議員

武田翔

私が政治家となる
きっかけとなったのは
米国留学中、友人と
ロサンゼルス近郊を
訪れたときのこと

そこには、アフリカ系
アメリカ人のルーツ
であるアフリカの
伝統や文化を大切に
する人々の姿

彼らの目は
自信と誇りに
満ち溢れていて…

私は

自らのルーツを深く知り、
学ぶことにより
人の自信と誇りは
強くなるのだとそのとき
確信しました。

日本人が自信と
誇りを持って生きていける
社会を作っていきたい…
そう、強く思い、
政治家を目指す道へと
歩み始めたのです。

2007
年

参議院議員
佐藤正久議員の
元ではじめの
一歩をスタート

佐藤正久議員の
選挙前から
ボランティア
スタッフとして
初当選をサポート。

事務所では
お茶の出し方から
政治の世界と義理、
人情や人の機微など
多くを学びました。

そして
政治家となった
ある日のこと

私は20年ぶりに
同級生と
再会しました。

彼には
障がいを持つ
お子さんが
いるのですが…

小学校の就学先に
ついて相談を受け、
知っているつもりで
何も知らなかった
自分があることに
気が付きました。

神奈川県
の教育政策は
他県と比べると
進んでいると
思っていたけれど

私達は「ともに生きる社会」といっても、言葉ばかりが先行して行動が追いついていなかったのではないか…?

もつと障がいの
あるお子さん、
ご家族の実情を
よく知り、

寄り添った政策を
進めていかなくては
ならないと
深く反省しました。

子どもは、
未来力だ。

神奈川県の
確かな未来をみんな
で作っていくために
全力を尽くさなければ
いけない。

全力で！